

- ◆ 中国財務局では、これまで接点の少なかった若年層に向けた広報活動の積極的な展開による情報発信が重要と認識。若年層のうちから日本の財政について理解を促すため、児童や生徒、学生に対する、啓蒙を意識した広報活動に取り組んでいる。
- ◆ 近畿財務局が実施した中学生向けの特別授業を視察した広島大学附属三原中学校（以下「三原中学校」）からの依頼を受け、中学3年生に対し「財政教育プログラムによる特別授業」（以下「財政特別授業」）として、平成28年2月、「自分の将来のために、日本の財政を考える」授業を実施。
- ◆ 今後も、広報活動の裾野を拡大するため、財政特別授業、講演のPRを強化し、地域連携の深化・拡大に努めるとともに、地域の直面する様々な課題解決を目指す。

### 1. 三原中学校等での「財政特別授業」の実施

○ 中国財務局では、従来から、中国地方の大学に対して、毎年、講義枠を確保し、社会保障と税の一体改革について講義を行ってきたものの、アウトリーチ拡大の一環として、小中高校生等若年層に向けた広報活動の積極的な展開が課題。

○ 平成27年11月に近畿財務局が実施した財政特別授業を視察した三原中学校PTA会長から、「当校でも実施してほしい」との強い要望を受け、28年2月16日に三原中学校において同授業を実施。

○ 財政特別授業で使用する資料は、三原中学校の社会科（公民）の授業で「政府の役割、財政・社会保障の仕組み」をどのように学習しているかを事前に確認し、同校社会科の先生からもアドバイスを受け作成。



【三原中学校での授業模様】

○ 授業では、動画・クイズを活用し、生徒に飽きさせず、わかりやすい内容となるよう工夫するとともに、タブレットを使用した、財政改革のシミュレーションにも挑戦。生徒自身によるアクティブラーニングを重視のうえ、双方向の議論となるよう授業を展開し、財政への理解を促進。

○ 三原中学校以外にも、東広島市生涯学習課からの要望を受け、鹿島学園通信制高校の生徒（主に16～17歳）に対し、28年2月23日に、公共サービスと税の役割や日本の財政と社会情勢について、動画・クイズを活用した講演を実施。

### 2. これまでの取組の成果等

○ 三原中学校の財政特別授業後のアンケートによると、全員が授業に参加して有意義であったと回答しており、生徒からは、「なぜこんなに赤字になるのだろうと思っていたけど、シミュレーションゲームをやって、財政改革（減額）の難しさがよくわかった」といった声が聞かれ、日本の財政について理解を深めてもらうきっかけとなった。

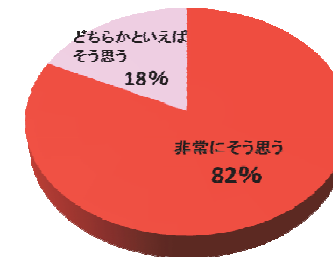
○ 財政特別授業の様子は、地元のケーブルテレビで放映されたほか、地元紙にも掲載。視察を行った附属学校PTA、三原市内公立中学校PTA等の関係者からも高い評価を受け、新たな授業実施要望を受けた。

○ 鹿島学園通信制高校では、「国の財政と国民生活との関わりがよくわかった」との声のほか、「選挙権年齢の引き下げもあり、主権者教育の観点からも役立った」との声が聞かれた。



【財政改革シミュレーションの模様】

特別授業に参加して有意義でしたか？



### 3. 今後の課題と中国財務局の対応

#### ＜今後の課題＞

- 継続的な広報活動と新規連携先の開拓により、国の財政状況についての理解者を拡大することが課題。
- 生徒自身によるアクティブラーニングを重視しながら、各年齢層に見合った教材や授業方法の開発が課題。

#### ＜今後の中国財務局の対応＞

- 広報活動の裾野拡大のため、財政特別授業、講演のPRを強化し、地域連携の深化・拡大に努めるとともに、地域の直面する様々な課題解決を目指す。